

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

令和8年度病害虫発生予報第3号（6月）  
令和8年度病害虫発生予察注意報第3号

記

担当 環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-41-9513  
ファックス 0561-63-7820

## 令和8年度病害虫発生予報第3号（6月）

令和8年6月2日  
愛知県

### 普通作物

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か多い	± ±～+
	紋枯病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か多い 6月の気温は高い	± ±～+ +
	縞葉枯病	平年並	県全域	前年の発生量はやや少ない 5月下旬のヒメトビウンカの 発生量はやや多い	- +
	ニカメイガ	やや多い	県全域	予察灯における誘殺数はやや多い	+
	ヒメトビウンカ	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

#### ・防除対策

##### 〔イネ・紋枯病〕

前年発生が多かったほ場では、ほ場内での発生状況に注意し、モンガリット粒剤、モンカット粒剤などで防除しましょう。

##### 〔イネ・ニカメイガ〕

弥富市及び豊川市に設置した予察灯において越冬世代成虫の誘殺が確認されています。今後、発生が多くなる恐れがありますので、予察灯の誘殺数データ（あいち病害虫情報調査データ）を参考にしてください。誘殺数が多くなった場合、特に近年被害が目立つ地域で育苗箱施薬等による防除を実施していないほ場では、パダンSG水溶剤などで防除しましょう。

〔イネ・ヒメトビウンカ（縞葉枯病）〕

イネ縞葉枯ウイルスはヒメトビウンカにより媒介されます。本病に抵抗性を持たないイネ品種では、本虫の発生状況に注意しましょう。

・留意事項

ムギ類赤かび病について、5月上旬調査において、発生が多いコムギほ場が一部でありました。本病原菌は腐生性が高く、ムギわらなどの作物残渣上に広く生存します。そのため、収穫後はほ場内の作物残渣の持ち出しや、耕起をしてすき込むなどして翌年の伝染源の除去に努めましょう。

イネの斑点米カメムシ類の一種であるイネカメムシは、近年発生範囲が拡大しています。本日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号（イネカメムシ対策）」を参考に対策の準備をしましょう。

イネいもち病は気温が20～25℃で曇雨天が続くと発生が多くなります。名古屋地方気象台5月28日発表の1か月予報によると、向こう1か月の天候は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。ほ場をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

トビイロウンカは、今年はまだ本県における予察灯への誘殺及び本田での発生も確認されていませんが、今後発表するトビイロウンカに関する情報に留意してください。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生が確認された水田では、苗の食害対策として、移植後3週間程度（食害を受けにくい5葉程度）までは浅水管理を行いましょう。また、貝の発生が多い場合は薬剤防除を行いましょう。なお、薬剤散布後7日間は落水やかけ流しはしないでください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない 6月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	ミカンハダニ	平年並	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない 6月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	アブラムシ類	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	－
	チャノキイロアザミウマ	やや少ない	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量はやや少ない 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	－ ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない	－
モモ	せん孔細菌病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	黒星病	やや多い	県全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	灰星病	多い	県全域	4月の発病花率は多い 6月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い	＋
	モモハモグリガ	平年並	県全域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	黒とう病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	県全域	イヌマキにおける5月下旬の 発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数 は平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量はやや少ない 6月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	角斑落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	うどんこ病	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	－
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬 成虫密度はやや少ない フェロモントラップ及び予察 灯における誘殺数はやや多い 複数ほ場においてカメムシ類 の飛来を確認	－ ＋ ＋

・防除対策

農薬を使用する際は、収穫前日数に注意しましょう。

〔ナシ・黒星病〕

4月30日発表の「病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

〔モモ・せん孔細菌病〕

スターナ水和剤やデランフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ・黒星病〕

ナリア WDG やデランフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ・灰星病〕

発病果実は伝染源となるので摘除して土中深く埋めるか、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

〔モモ・ナシヒメシンクイ〕

フェニックスフロアブルやディアナWDGなどで防除しましょう。

〔ブドウ・黒とう病〕

カナメフロアブルやスクレアフロアブルなどで防除し、発病果実、発病新梢、発病葉はほ場外に持ち出して処分しましょう。袋かけはなるべく早く行いましょう。

〔ブドウ・べと病〕

ジャストフィットフロアブル（注意：収穫 30 日前まで）やランマンフロアブルなどで防除しましょう。

〔カキ・角斑落葉病、円星落葉病〕

ベルコート水和剤やストロビードライフフロアブルなどで防除しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

台風等による強風が発生した場合、突然、果樹園へ多数飛来する可能性がありますので注意しましょう。本日発表の「病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

・留意事項

台風による激しい風雨による傷は、病原菌の侵入口となるとともに、病気の発生を助長します。台風通過後は農薬散布を行い、病気の発生を抑えましょう。

カンキツ黒点病は多雨により感染しやすくなります。台風通過後は薬剤防除を心がけましょう。

モモ、ウメではクビアカツヤカミキリの成虫が発生する時期です。5月18日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参考に、成虫の飛来に注意し、しっかり防除してください。

チャノキイロアザミウマの防除適期は、成虫発生ピークの時期です。本虫の第2世代成虫（中山間部に位置する稲武は第1世代成虫）の発生ピークは、6月2日から6月10日です。下表を参考に適期防除に努めましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第2世代	6/7	6/10	6/2	6/4	6/6	6/6	6/6	6/6	6/8	6/7	第1世代 6/3
（前年）	6/15	6/17	6/11	6/13	6/15	6/15	6/14	6/15	6/16	6/15	6/10
前年比	8日早	7日早	9日早	9日早	9日早	9日早	8日早	9日早	8日早	8日早	7日早
第3世代	6/30	7/4	6/25	6/27	6/29	6/30	6/29	6/30	7/2	7/1	第2世代 7/4

各地のアメダス平均気温から予測。5月31日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

前年の第2世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

## 野菜

### ・留意事項

台風による激しい風雨による傷は、病原菌の侵入口となるとともに、病気の発生を助長します。台風通過後は農薬散布を行い、病気の発生を抑えましょう。

フェロモントラップにおけるオオタバコガやシロイチモジヨトウの誘殺数がやや多い状況です。ほ場での発生に注意しましょう。

アザミウマ類やコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

ブロッコリーやキャベツの黒すす病が一部地域で問題となっています。発病株は次作の伝染源となるため、作終了後は収穫残さを速やかにすき込みましょう。

2月に中山間部でトマトキバガが多数越冬しているほ場を確認しています。令和8年3月23日発表の「トマトキバガ情報第3号（トマト）」及び令和6年9月9日発表の「令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号」を参考にほ場をよく観察しましょう。疑わしい被害が認められた場合は、トマトキバガに適用のある農薬で防除し、被害葉及び被害果は適切に処分しましょう。また、病害虫防除室もしくはお近くの農業改良普及課へお知らせください。

サツマイモ基腐病は平成30年に国内で初確認され、県内では過去に2事例発生しています。感染防止のため早期発見に努め、葉のしおれや黄化、株元の変色などが見つかった場合は発生株を適切に処分しましょう。サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、農研機構「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」をご覧ください。

「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」（令和4年度版）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html)

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	やや多い	平坦部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か多い	± ±～+
		多い	山間部	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並か多い	＋ ±～+

### ・防除対策

〔キク（露地）・白さび病〕

被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除しましょう。ラリー乳剤やカナメフロアブルなど系統の異なる農薬でローテーション防除しましょう。

### ・留意事項

台風による激しい風雨による傷は、病原菌の侵入口となるとともに、病気の発生を助長します。台風通過後は農薬散布を行い、病気の発生を抑えましょう。

フェロモントラップにおけるオオタバコガやシロイチモジヨトウの誘殺数がやや多い状況です。ほ場での発生に注意しましょう。

アザミウマ類、ハダニ類などの害虫は、気温が高く雨が少ないと増加しやすくなります。ほ場をよく観察し、発生を確認したら早めに防除しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

#### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台5月28日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%